

府中市観光振興プラン検討協議会 第5回 議事録

1 日時：令和3年7月16日（金） 10時00分～12時00分

2 場所：市役所北庁舎3階第1・2会議室

3 出席者：＜順不同敬称略＞

公募市民	石川伊智郎	
商工関係団体の推薦する者	井上博正	むさし府中商工会議所
府中観光協会の推薦する者	宇田雅志	府中観光協会
学識経験を有する者	大下茂	帝京大学教授
府中観光協会の推薦する者	大津貞夫	府中観光協会
学識経験を有する者	小野一之	郷土の森博物館前館長
民間事業者の推薦する者	井上光男	サントリービール株式会社
民間事業者の推薦する者	都留圭一郎	日本中央競馬会 東京競馬場
学識経験を有する者	得居泰司	ジェイコム東京 J:COM アナウンサー
民間事業者の推薦する者	長尾諭	東日本旅客鉄道株式会社
民間事業者の推薦する者	林健太郎	京王電鉄株式会社
商工関係団体の推薦する者	廣瀬健	まちづくり府中
公募市民	深澤廣太郎	

4 次第

(1) 開会

(2) 確認事項

府中市観光振興プラン検討協議会 第4回 議事録について

(3) 報告事項

府中市観光振興プラン（令和4年度～令和11年度）1章～3章の追加・修正事項について

(4) 審議事項

- ・府中市観光振興プラン（令和4年度～令和11年度）4章～6章の確認及び意見聴取について
- ・コンセプトについて

(5) その他

5 議事の内容

(1) 開会

開会挨拶(大津会長)

【大津会長】

本日は大変お忙しい中、またコロナ禍にも関わらず検討協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。最近、また感染が拡大しておりまして、1週間後にせまった東京オリンピックも含めて今後どのような影響があるのか不安に感じているところです。また、オリンピック以外にも皆様の団体で計画されておりました様々な事業やイベントが中止になり、非常に今寂しい限りでございます。この観光振興プラン検討協議会でもそういった点も踏まえてご意見いただければと思いますので、よろしくお願いたします。

委員出席状況(事務局)

【事務局】

本日の委員の出席状況ですが、筒井委員、横山委員より欠席の連絡をいただいております。現在、委員定数15名のうち、過半数を超える13名の委員が出席されておりますので、本協議会は有効に成立しておりますことをご報告いたします。

【大津会長】

本日の協議会は有効に成立していると報告がございました。

続いて、事務局から傍聴希望を報告してください。

傍聴希望の状況について(事務局)

【事務局】

昨日までに、傍聴を希望された方はおりませんでしたので、本日の傍聴希望者はおりません。

配布資料の確認(事務局)

・配付資料

次第

第5回府中市観光振興プラン検討協議会 進行資料

資料 5-1 府中市観光振興プラン検討協議会 第4回 議事録

資料 5-2 府中市観光振興プラン 1章～6章(案)

資料 5-3 コンセプトについて

(2) 確認事項

府中市観光振興プラン検討協議会 第4回 議事録について

※別紙資料 5-1 参照

【大津会長】

府中市観光振興プラン検討協議会第4回議事録について、事務局から委員の皆様へ事前送付されております。本日資料 5-1 としてお手元にございますが、各委員の皆様へ内容を確認いただいた中で、修正すべき点や何かお気づきの点がございましたら、ご意見をお伺いしたいと思います。

※委員からの意見なし

資料の通り、第4回議事録の内容を確定したいと思いますので、事務局は速やかに公開の手続きを行っていただきたいと思います。

(3) 報告事項

府中市観光振興プラン(令和4年度～令和11年度)1章～3章の追加・修正事項について

※別紙資料 5-2 参照

【大津会長】

只今、事務局から「府中市観光振興プラン(令和4年度～令和11年度)1章～3章の追加・修正事項について」の報告がありました。委員の皆様、何かご質問等ございますでしょうか。

●質疑応答

【小野委員】

2点ございます。1点目は6ページ「2-1. 府中市の概要」の歴史のところはもう少し整理して強調できると思います。特に江戸時代の宿場町の話がなく、今の府中のまちの原型は宿場なので、そのあたりぜひ取り上げていただければと思います。また、交通の要衝であったことも強調できると思います。今の府中街道・鎌倉街道の前身であるルートが言ってみれば東日本全体の幹線道であるという最近の研究もありますので、府中の歴史の特色として強調ができると思います。

2つ目が10ページのお祭りの部分ですが、子どもたちの文化継承が最後記載されていますが、せっかく子供神輿を入れるのであれば、お囃子のこともぜひ入れていただければと思います。現在、府中市内に25支部あり、非常に子供が多く、これが文化継承の役割を大きく担っていると思いますので、触れていただければと思います。

【事務局】

ご指摘の点に関しましては、再度検討の上、追記させていただきます。ありがとうございます。

【石川委員】

2点ございます。1点目はプランの計画期間のところ、8年間の中で市制施行70周年、75周年を迎えると思いますので、そういった節目も意識して検討いただければと思います。

2点目は、7ページの交通機関・手段のところ、「ちゅうバス」がありますが、皆さんがご存じのとおり、採算が取れないので、補助金が投入されております。ここまで突っ込んだ議論が必要かということもありますが、市の財政的負担の軽減がまず必要なのではないかと思えます。

逆にシェアサイクルは事業者負担がかなり多いと聞いておまして、持続のためには市からの何らかの補助金が必要であり、そういったことも検討されるべきではないかと思えます。どうしても観光振興のための武器がうまく作動していかないと持続化できないと思えます。現行プランにおいて、観光基盤の整備がされてきたとはいえ、ちゅうバスがうまく進んでいないという課題もありますので、その辺も踏まえていただければと思えます。

【大津会長】

ありがとうございました。今のご意見も事務局にはぜひ検討をいただければと思えます。

【井上（博）委員】

32ページの評価についてです。すごくいい点数となっていますが、よろしいのでしょうか。特に「観光データの把握・分析」が「3」になっていますが、何もないので、0や1にならないとおかしいのではないかと思えます。評価が甘いのではないかと思っています。また、多様な主体の連携で商業と出ていますが、それに対して関連計画の中には、ケヤキ並木等の中心市街地のことが一切入っていないので、入れていただきたいと思えます。

全体的な話をする、大昔の観光のイメージになっています。都会の田舎だからできるかはわかりませんが、日本橋は完全に都市型の観光になっています。それに対して、府中市もそういった要素を入れなくてよいのかと思えます。理由は府中の大型店だけの数字ですが、府中のケヤキ並木周辺で9万5千平米くらいあります。調布が約5万6千平米、聖蹟桜ヶ丘で約6万平米くらいです。競合店の観点から言うと、この部分を利用しない手はないと思えます。一方で立川は約14万平米ありますので、敵うわけではないのですが、その辺の都市型の観光も改めて検討していただきたいと思えます。調布等に比べて観光資源があるわけですので、その辺も踏まえた観光にしないと現代の観光に即しているのか疑問に思えます。

【事務局】

現行プランの評価のところにつきましては、明確な進捗を図る基準を設けておりませんでしたので、客観的な評価ができているかと問われますとできていない状況です。計画期間までの事業を整理し、その中で、ある程度基盤整備は進んだと判断し、「4」ないし「5」の評価をしております。ただ、「3」が付いております「観光データの把握・分析」については、十分でなかったということで「3」としております。

また、4ページのところで関連計画にケヤキ並木の計画が入っていないというご指摘については、追記する形で調整いたします。

立川や調布と比べた際に府中市のおかれるポジショニングのところですが、マーケティングにつながる部分と思えますので、再度JTB総研と検討いたします。

【深澤委員】

32 ページですが、「成果と課題を整理して、本プランにつなげていく」と記載がありますが、それであれば、中身を具体的に、どういったことが行われてきたのか、突っ込んだ議論をしないといけないと思います。ここが整理できないと次期プランの話に進めないと思います。例えば、進捗状況で「4」「5」となっていますが、根拠があるのかどうか大事かと思えます。そうでないと、次期プランに活用できないと思います。中身の整理と、どこまで行っていて、次期プランに活かせるかをしっかりと整理してもらった方が良いと思います。ここで方針を決めておかないと、また次期プランで同じことが起きると思います。わかりやすい編集をお願いできればと思います。

【事務局】

今までの協議会でもご指摘いただいておりますので、今回 32 ページから 35 ページの部分でより詳細に編集したところです。特に 33 ページから 34 ページについては、過去の計画期間（平成 23 年度～令和 3 年度）の間にどういったことを行ったかを項目別に記載しています。この背景には、各年度で何を行ったかを整理しております、それをよりわかりやすく項目別に編集したところでもあります。今回のプランは令和 4 年度以降のものを重点的に定めていくものだと思っておりますので、どこまで詳細に編集できるかの問題はありますが、ご指摘いただいた点に留意して再度検討いたします。

【事務局】

今具体的に組み込んだ内容を文章化しているところですが、32 ページの基本方針に対して、33 ページ、34 ページがどこを指した評価なのか、説明不足の点もありましたので、ここの整合について改めて編集いたします。

41 ページからの具体的な施策については、これから作り込んでいく部分になりますが、ここも今ご意見ありましたように、現行プランから継続して行っていくものと、次のステップに発展させていくものと、今までの取組を踏まえて具体的な施策を入れていきますので、そのあたりの関連性がわかるような形で整理していきます。

【深澤委員】

具体的に結果がどうだったのかが重要だと思いますので、難しいところではありますが、そこを整理しないと次のプランにいけないと思いますので、なぜ駄目だったのか、次のプランに入れるのか、入れないのか等、議論していかないと、次に進めないと思っております。また、内容がたくさんあるので、本当にここまでできるのか疑問に思います。当然ヒト・モノ・カネが関わる話ですので、慎重に議論しないと、行って駄目でしたではすまされないと思います。そのあたりも含めて検討いただければと思います。

(4) 審議事項

- ・府中市観光振興プラン（令和 4 年度～令和 11 年度）4 章～6 章の確認及び意見聴取について

【大津会長】

次に、次第 4、審議事項に移ります。（1）府中市観光振興プラン（令和 4 年度～令和 11 年度）4 章～

6章の確認及び意見聴取について、事務局から説明してください。

※別紙資料 5-2 参照

【大津会長】

只今、事務局より「府中市観光振興プラン（令和4年度～令和11年度）4章～6章（案）」について説明がございました。今までの協議会やワーキンググループで出た意見等を基にまとめたものとなっております。4章のコンセプトについては後程議論いただきますので、その他の点について、お気づきの点がございましたら、ご意見をいただければと思います。

【井上（博）委員】

35 ページに「マーケティングに基づいて」と記載がありますが、今まではマーケティングをしてこなかったのでしょうか。マーケティングは50年以上前から出ている言葉だと思いますので、本当にできていなかったのか疑問です。また、最後のページで評価をすることになっていますが、47 ページの段階で、よかったのか、悪かったのか、短期・中期・長期で具体的に評価をしていかないといけないと思います。

【事務局】

マーケティングのところですが、前プランにおいてもターゲットの記載はありましたが、今回のプランではよりターゲットを絞って、そのターゲットに向けて施策を展開していくという整理になっていますので、よりマーケティング視点を重視していくということでご理解いただければと思います。

47 ページ以降のところの評価ですが、51 ページ記載の観光振興連絡会で、随時施策の進捗を報告し、チェックをしていく体制が取れればと思っております。また、4年後には中間見直しも予定をしておりますので、プランの修正等も含めて進めていければと思っております。

【井上（博）委員】

具体的に評価できる数値で行わなければいけないと思います。

【宇田委員】

先程、評価が甘いというご意見も出ておりましたが、まったくその通りで、会社の場合何かを行うという時は必ず目標は数値化して、その目標に対して施策を行います。例えば、目標が100で現状が30であれば、この施策を行ったことで、今年は40、50に上がりましたというように必ず目に見えるような形で示すことが重要です。やる気にもつながりますし、数値が上がらなければ、これをやめて、違うやり方にしようとするのが一般的だと思います。

マーケティングという話が出ていますが、ここにくるまでも20代がどのように動いているかや、割合何%等のそういった数値は出てきていますが、具体的にこの中にそれがない状態です。抽象的な言葉しかないなので、最終的に皆さんが納得するのは数値だと思いますので、数字を入れるという概念をここに入れ込んでいかないとわからないと思います。先程、役割の話で観光振興連絡会で行うような発言もありましたが、これは府中市の観光振興プランですので、府中市が率先して数値化して、その検証をまとめるという役割をはっきり示さないといけないのではないかと思います。数値化できない部分もあるかと

と思いますが、何かしら関連付けして数値化することも必要です。例えば、府中駅の乗降客や博物館の入場者数、観光協会で集計している観光物産館の入場者数・売上金額など、どこの施設でも集計を行っていると思いますので、せめてそういったことがどう動いたのかは目に見えるような形で出せるとと思います。何かしらの評価をここに出していただければと思います。みんなが納得するには目に見えるような形にすることが一番だと思います。

【事務局】

ご指摘の通りかと思います。各個別の施策については、どこまで進んだかが客観的にわかるのが数値だと思います。41 ページから個別の施策を記載しておりますが、現行プランで不足しておりました、KPI をここに設定をしていきます。また、節目においては、経費の関係上どこまでできるかの問題はありますが、アンケート調査等を含めて中間評価を行いたいと思います。それらの調査結果や数値を観光振興連絡会に共有しまして、客観的な意見をいただきながら進めていきたいと思っています。

【宇田委員】

過去の分の数値は出ないのでしょうか。検証結果のページがあったと思いますが、深澤委員もおっしゃられたように言葉ではわかりづらい部分もあります。数値が動いたから評価が「5」というような整理になっていないので、みんなもやややしているのだと思います。

【事務局】

各施策の KPI を設定しておりませんでした。

【宇田委員】

過去の入場者数等は出せる部分はあると思いますので、これを行ったからこの数値が上がっている等の分析はされていないのでしょうか。

【事務局】

各施設の人数の推移は 26 ページに観光入込客数という形で、主要施設・主要イベント共に集計しておりますが、各施策との整合は取っておりませんでしたので、そのあたりの分析を含めて記載の仕方を再度事務局内にて検証いたします。評価が数値的にもわかるような形でお示しできればと思います。

【井上（光）委員】

まず、JTB 総研の皆さんにはないようなところから、評価を言語化していただいて、そういったところでこのような議論が出来ておりますので、感謝しています。ただ、企業では先程 PDCA と言ってましたが、日常的なサイクルと今議論しているのは改善型のサイクルだと思っておりますので、そこで議論がかみ合っていないのだと思います。改善型のサイクルでは、テーマを決めて、今回は観光振興プランを新しくするというテーマがありますが、現行プランはどうなっているのかという現状を解析して、その結果に問題点があって、問題点の裏返しを目標・方策になって、活動計画を立てて、またそれについてどうだったか、評価と反省をするような流れかと思います。今回評価の軸がなく、各項目の評価ができてなかった

ので、個別施策について改めて 3 章で評価をしている状況かと思えます。それについてしっかり問題点が把握されて、今施策とされているところが、改善型でいうと方策なのかと思えますが、それが導き出されて、目標値が出て、管理体制が出ていくような形になるのではないかと思います。そのところの見せ方がうまくできていないので、各委員の皆さんからわかりにくい等の指摘をいただいているのだと思います。あともう一步のところ、もっと良いものができるのではないかと考えていますので、見せ方・工夫の仕方だと思います。

【事務局】

見せ方のところについては、JTB 総合研究所と再度検討し、わかりやすい表記にしていきたいと思えます。

【廣瀬委員】

今の井上委員の話と関連しますが、進め方として個別の施策のコメントもある中で、その後スローガン・コンセプトを決めていくとありましたが、スローガン・コンセプトを定めた後も、それに応じて個別施策も変わってくると思えますので、先にビジョンがあって、個別施策を考えていくということもあるかと思えます。そこは一回やり取りが必要なのではないかと考えております。

その上で個別施策の話になっていきますが、意見というよりは質問ですが、姉妹都市等との交流・観光施策は検討されているのかという点が 1 つと、前回も申し上げましたが、府中大使の方の活用については個別施策の中で検討いただけるのかという点が 2 つ目です。

最後、東京外国語大学等との連携について記載がありますが、市内の外国人の方に府中の魅力を知っていただいて、そういったところから東京外国語大学の学生や国際交流サロンといった機関を使って、多言語での発信や市内在住の外国人にも魅力を知っていただくことも府中らしい発信の仕方かと思えます。

【事務局】

姉妹都市・交流都市のところですが、今回のプランでは交流のところを中心に重点を置いていますので、そういった視点も加えていきたいと思えます。また、府中大使のところも今後も継続して広げていければと思っております。そして、東京外国語大学のところについては、記載方を再度検討いたします。

【深澤委員】

この施策の中でぜひお願いしたいのが人材の育成です。すべての問題に関わってくると思えます。私は今観光ボランティアをしておりますが、一番難しいのは人材の育成です。そのあたり次期プランでは重点を置いていただければと思えます。今のままではガイドをする人材がいなくなってしまう。府中の観光を語れる方が少なくなってきていますので、危機感を持っております。

【大津会長】

51 ページのプラン推進における役割あたりはいかがでしょうか。

【都留委員】

先程から皆様から具体的な指摘をいただいている中で、この役割分担を見た時に、今回の観光振興プランはあくまで行政である府中市が考えるプランであるという位置づけがあると思います。それを推進していくための推進体制、50 ページの表を記載いただいていると思います。先程からどうしても行政としての仕事の進め方、行ってきたことの検証の仕方が甘いという指摘もある中で、府中市は実際に観光の具体的な事業をお金や人を投入して行う立場でもないことから、そこが実際行ったことと評価が甘めになっている原因の一つかと思います。プランの根本的な位置づけを考えると、なかなかその折り合いをつけるのは難しいのではないかと、異なる視点から言うと感じたところです。

推進体制について、府中観光協会を中心として多様な主体と連携しながら行うという形になっていますが、もう一度ここで、観光の具体的な事業を行う立場の人、そういったことをまとめ上げる人、それに対して評価・検証をする人といった視点で整理をしてみるとこの表は妥当なものとなっていると思います。強いて言えば、行った施策の進捗チェック、検証をどの部分で行うのか明確になると良いのではないかと思います。

【大津会長】

次期プランの 8 年間の中で中間報告はありますが、先程から評価・検証をもっと細かくした方が良いのではないかという意見を多くいただいておりますので、再度事務局で検討をお願いいたします。

【大下副会長】

3 点お話をさせていただきます。1 点目、以前もお話しましたが、観光振興プランは法律で定められたものではございません。したがってひな型やパターンがあるわけではありません。確かに観光立国推進基本法というのがあり、それに基づいて観光施策は展開されております。しかしそれは国として定めているものであり、都道府県・市町村がそれに基づいて策定しなければいけないものではありません。つまり 1 つの観光振興プランというものは、観光を推進しようとしている部署の任意の計画であるということです。持つ必要はないのですが、府中市は前プランもあり、今回それを改定して積極的に進めていこうという意思の表れだと思います。

その上で観光振興プランには大きくわけて 2 種類のタイプがあります。1 つは観光振興プラン・観光振興計画と呼ばれるものです。もう 1 つは観光振興アクションプラン・行動計画・行動指針と呼ばれるものです。この 2 つは大きく異なります。観光振興プラン・観光振興計画はどちらかという、観光事業・観光政策を行うにあたって総花的に様々なことを書いておくことが重要です。プラン全体の中で今後期間中の 8 年間の間に必要になるであろう項目をあついで足すのではなく、今の段階から書いておくことが求められます。一番わかりやすいのが、府中市の総合計画だと思います。行政の経営方針であるものは、できる、できないというよりも、行う必要があると予想されるものを入れておきましょうと、その中で重点的にどれから攻めていきますかという議論になるものです。したがって今回そういった性格のものを策定するという、先程お話ししたアクションプランとは性質が違うものとなります。

もう 1 つが観光振興アクションプランと言われているものですが、具体的に何を行うかといったピンポイントで攻めたものが作られている事例もあります。あるいは行動指針的なものが書いてあります。そういったものはだいたい 8 年間などの長いものではなく、3 年や長くて 5 年ぐらいの計画の中で、それ

を作成して、評価して、次の指針・アクションプランにどんどん変えていく、地域によっては、1年に1回、もしくは観光振興プランを策定したものに紐づけて行動計画を1年ごとに作成している自治体もあります。そのあたりを混ぜて議論してしまうと本日いただいたような意見になるわけです。まず、観光振興プランとしての性格を確認した上で、今後もし皆さんがおっしゃるような評価をした上で、着実に進めていくというものを策定した方が良いとなれば、観光振興プランに基づき、毎年行政と中心となる観光協会、観光振興連絡会で承認を諮っていきながら1年ごとに作って、指針・今年重点テーマを定めて、数値を検証した上で改善、次の施策にどうつなげるかを展開していくことになると思います。観光振興プランの総花的なものでありながら、どう動きを見せていくか、あるいはどう具体化していくための方策をきっちりと一文入れておくかということで、本日皆さんからいただいた意見は生きてくると思います。

2点目、甘いと感じていただいた評価です。確かにその通りかと思えます。事業を行ったので「4」であるみたいに成果と結びついていないことは確かです。これは進捗を表現しただけであり、出てきたアウトプットを評価したものではありません。しかも数字でみれば「5」「4」：高い、「3」：普通、「2」：低い、「1」：何も行っていないとなると、「1」は普通は「0」でもよいくらいかと思えます。その辺の数字の区分も紛らわしくなっておりますので、今回の中でしっかりと評価は基準を定めないとはいけません。前プランの評価は数値と施策の紐づけが可能なものなのか、これを行ったからこの数値に近づいたというものがなるべく納得いく形で整理をしていただければと思います。それが今後のプランの評価の軸につながると考えています。

それらも踏まえて、今回ばらけており、プランの特長が弱くなっていることを危惧しております。36ページに大事なことを記載してありますが、「経営力に基づく観光を基軸として」とありますが、これが今回の観光振興プランの肝で、どこの地域でも「経営力に基づく観光を基軸として」とは言っておりません。井上委員がおっしゃっていたマーケティングは時代遅れではないかという指摘もありましたが、私もマーケティングは手法であるので、1つの手法だけを取り上げるのはおかしく、むしろ観光の経営力を高めていくということになると単にマーケティングだけではなく、組織力・危機管理・品質管理などすべてそういったものが関わってきます。深澤委員もおっしゃっていた人材育成の話も当然そこに出てきます。したがって、この協議会に出ていただいた民間企業を中心として、各経営に携わっている方々が府中の観光には経営力という考え方をもち込んで行わないといけないということを皆さん声を強めてご指摘をいただいていることだと思います。なので、指標の数値もしっかりと見てほしいというのは、経営力に基づく話だと思います。

今回のプランの一番の特長は4ページに記載のある「経営力に基づく観光の推進」をもっと強く出していく必要があります。先程井上委員がおっしゃったように、マーケティングだけでなく、組織力・危機管理・品質管理も含めて経営力に基づく観光と捉えていただければ、本日いただいた意見を集約できると思います。書いてはありますが、見せ方の問題もあるかと思えます。

3点目、先程観光振興プランは総花的なものになりがちという話をさせていただき、その中でもどう動かすのかを入れていく必要がありますとお話しました。47ページの①～④に先程の話は触れられておりますが、重点施策を定めます（施策のプライオリティ）と記載があり、プライオリティはきれいな言葉ではあるのですが、重点施策を決めるための基準が定められておりません。緊急性を要するものなのか、波及度はどうか、長期に関わることなので、早めに手をつけなければいけないものなのか、経営のことを考

えると様々あると思います。やりやすいことから行っていく、あるいは難しいから先に挑戦しておくということもあると思います。ここでプライオリティが出てきている以上はそのプライオリティとは何なのか、議論されるべき内容かと思えます。6章に出てくるものではなく、4章の基本目標の中でここをしっかりと皆さんと議論していくことが重要ではないかと思えます。総花的と言われる観光振興プランの中でも、どう動かしていくかということが明確になってくるのではないかと思えます。この後の議論の中でもプライオリティをどう付けていくのかも委員の皆さんから意見をいただくと今後の事務局の整理もしやすくなってくると思えます。

最後に 50 ページですが、この絵はすごく大事な絵で、これがすべてを物語ります。今回のプランについては府中観光協会が中心となって、観光振興連絡会、学術団体・大学等、市民・まちづくり団体、行政が一つのプラットフォームを作っていきますと記載があります。しかし、この中に、国や東京都というキーワードがありません。観光振興プランを策定する 1 つの目的として東京都や東京観光財団からの様々な支援事業や補助事業の獲得も観光協会としては考えなければいけないと思えます。その際に、ここに書いてある施策が今回の支援・補助事業にあたるということをつなげできていると、支援する側からしても、単に観光協会が思い付きで言っているわけではないですねとなります。しっかりと行政もバックアップをしながら、ここに書いてある施策のことで申請されたということがわかれば、非常に円滑に進むことにつながっていきます。したがって、ここに国や東京都との関係を表現されておくのが良いと思えます。この絵だけが独り歩きすることがよくありますので、そのあたりは追記していただければと思います。

【大津会長】

ありがとうございました。今大下副会長からプライオリティをどう付けていくかという話もありましたので、少し時間を取って皆さんからご意見をいただければと思います。47 ページをご覧ください。大下副会長より再度補足をさせていただきます。

【大下副会長】

プライオリティについて少し補足をさせていただきます。例えば、やりやすいものから取り組んでいき、取り組んでいくことによって市民や関係者に府中の観光が動いているということを明示するというやり方もあります。あるいは、とにかく緊急性が必要なので、緊急性のあるものを優先的に行うべきではないかというやり方もあると思えます。さらには、これを一つやることによって、他のものに波及していくのではないか、これを行わないと、こっちができないのではないかというようなことを大事にすべきという議論もあると思えます。このようにいくつかの視点があると思うので、プライオリティを決める際に、これを重視した方が良いというところを皆さんから意見をいただければと思います。

【小野委員】

重点施策というところでは、まず一番大きいのはストーリー性のある観光コンテンツの造成ということかと思えます。その際にやりやすいかどうかわかりませんが、一番大きなことは今まで話題に上がっている競馬場のことかと思えます。やはり府中の認知度は一般的には競馬であるということ、それから前回話題になりましたが、人流として一番大きいのが競馬場であります。そういったことも踏まえ

て、それを歴史・文化的資源に取り込みながら、その人流を地域全体に及ぼし、かつ競馬場に来てくださる方に、府中の歴史・文化に触れてもらうという、そういったストーリー作りを行い、それによって、どういう効果が上がったかということを目的にしたいと思いました。

競馬場は馬ですので、府中は馬との関わりが非常に濃く、大國魂神社の例大祭に競馬式があるのはご承知の通りかと思いますが、江戸時代には馬市という武蔵国一番の馬の市場があり、またさらに遡っていけば、平安時代に馬の牧場がありました。そういったことを踏まえて、ストーリーづくりができると思います。そうすると昭和 8 年に府中に競馬場が来たというのは、歴史の必然ともいえるようなストーリーを作り上げることもできると思います。歴史・文化資源と産業資源を統合したようなストーリー性のあるコンテンツを造成しまして、それによって波及効果の指標を定めることがまずは重点施策として考えられるのではないかと思います。

【宇田委員】

即効性のあるものを重点施策の軸にもっていても良いかと思いました。その中で競馬場は求心力があり、人がたくさん来てくれる、ではその人たちをどう回遊させるかということだと思います。先日競馬場でお話されていたのが、地域に迷惑のかからないように、安全の観点から直通的な道等を整備されているということだったと思いますが、やはり訪れてそのまま帰るとするのはもったいないと思いますので、それは1つ行うべきなのではないかと思います。情報が訪れる方に入っていかなければ、何の興味も持たず、ただ帰ってしまうだけです。過去には飲食店の割引券を入場者に配布し、まちに来てもらうという施策も行っていたと思いますので、それも単発で行うのではなくて、もう少し計画性を持って、飲食店も1つですし、歴史に興味がある人にもこういった施策を試みようなど、やるべきことだと思います。わざわざ遠くにいる方を来させるのが難しい中、せっかく府中まで来てくれているので、即効性という観点で重点施策としてそういったことを検討するのも良いのではないかと思います。

【大津会長】

競馬場の話が出ましたが、サントリーの工場見学もたくさんの方が来るようになっておりまして、中には観光バスを仕立ててくるようなこともありますので、そういった点も考慮していただいて、重点施策の中に入れていただければと思います。

【大津会長】

続いて、審議事項(2)コンセプトについて、事務局から説明してください。

※別紙資料 5-3 参照

【大津会長】

只今、事務局より「コンセプト」について説明がございました。36 ページにあります通り、観光・交流による地域の活力向上、市民が誇れる観光・交流の磨き上げ、持続可能な観光・交流を実現すること、これらを踏まえ、府中市らしい特長や魅力が詰まったコンセプトとなりますようにご意見をいただければと思います。先程観光プロモーション課長からもありましたが、現行プランでは観光の基盤の整備、定着化が進みましましたので、新プランでは戦略的に打って出るプランとしてまとめていきたい意向もありま

すので、よろしくお願ひいたします。

【宇田委員】

キャッチコピーということで、普通に何かを売り込もうという時のキャッチコピーは目立ってなんぼの世界かと思います。地方自治体でも「何それ」というキャッチコピーがあり、テレビなんかでも目立っていると思いますが、あまりにも平凡なキャッチコピーを考えても、取り上げてもらえないので、一つ勝負に出るとすれば、「何それ」というマスコミが飛びつくようなキャッチコピーに打って出るのもの一つかなと思います。

【得居委員】

市民公募等のお考えはあるのでしょうか。

【事務局】

市民公募は考えておりませんので、本日の議論の中でキャッチコピーに入るようなキーワードとなぜそのキーワードなのかという理由などもお伺いできればと思います。

【事務局】

本日ご意見いただきたいのが、コンセプトになりまして、府中市らしさや府中市として来訪してくれた方に何を提供できるのかなどをまず文章化します。本日いただいた内容を踏まえて事務局で文章化して、皆さんに共有させていただきますが、この文章化がしっかりできると、府中の観光の取組はこういったものなんだというのができ、スローガンは自ずと出てくると思います。そのスローガンは前プラン同様、市外の方向け、市民の方向けに出されて、その背景になるものが、コンセプトという形となります。

先程議論いただいてたプライオリティの話の延長で良いと思います。どういった視点で考えていくのか、皆さんがイメージされるのものがあれば教えていただければと思います。

【井上（博）委員】

先程宇田委員がおっしゃっていたように評価で言うと1点か5点でないと、インパクトがありません。小野委員がおっしゃられていたように、先程の話で言うと我々も知らない話がたくさんあるわけで、住んでいる人も知らないのが実情だと思います。スローガンかコンセプトかわかりませんが、「あなたの知らないまちがある」とし、まちの字に歴史・文化・自然・食など全部入れてそれを「まち」と読ませるぐらいの形でやらないといけないかと思います。先程市内・市外の話がありましたが、正直両方とも知らないと思います。府中に大昔から住んでいる方、昭和から住み始めた方など、ここに住んでいる方は3層～4層に分かれています。東京都内が実際そういう形ですので、そういったことを考えると知らないことを前提にしていったほうが良いと思います。評価で言うと1点か5点のそれくらいとんがったもので良いと思います。

【大津会長】

今までの既成概念とは違ったものの見方が現在主流になっておりますので、そういったことも踏まえ

たご意見だったかと思います。

【宇田委員】

やはりお祭りのまちだと思います。今はコロナ禍でできておりませんが、何か1年中お祭りを行っているというイメージです。大國魂神社中心にビールまつりや酒まつりもそうですが、本当の神事ということだけでなく、何かしら人が集いワイワイやっているというのが府中のイメージで、コンセプトのキーワードはお祭りのまち府中を検討いただければと思います。東京の人でも府中がお祭りのまちであるというイメージはないと思います。なので、くらやみ祭を知らない人が世の中たくさんいて、お神輿や山車がこんなにたくさん出ることも知られていないと思います。したがって、お祭りのまち府中と打って出て、一度でいいから見に来てもらう、受入体制の課題はありますが、とりあえず来てもらい、なんだか府中すごいな、面白いな、ということを感じてもらえると、そこから派生してくるのではないかと思います。とにかく来てもらうことが大事かと思います。観光で来てもらったときに期待を裏切らないのが、やはりくらやみ祭だと思います。他のものを打ち出したときに、こっちの方がすごいというのがあるかもしれませんが、くらやみ祭を全面に打ち出し、来てもらってすごいと感じてもらい引き込んでいくのが良いと思います。

【大津会長】

今お祭りの話がありました。8つの神輿と6張の大太鼓がありますが、それだけではなくて、府中には神社がいくつもあります。そこには必ず神輿と太鼓がありまして、府中市の周年事業を行う時に、太鼓パレードもありますが、たくさんの太鼓が府中の中心地に集まってきます。そういったことも知らない方がまだたくさんいると思います。先程意見がありましたように「あなたの知らないまちがある」というようなところも多分にありますので、そういったところを表現していくことも大事かと思います。

【深澤委員】

大國魂神社のお祭りに注目するのは良いと思います。また、ガイドをしていて感じるのは国府をもっとPRしても良いと思っております。国府があるのはこの府中しか考えられないわけですので、やはり国府があって、大國魂神社があるという位置づけだと私は思っております。国府を全面に出した方が良いと思います。もしお祭りに注目するのであれば、電車で広告載せるなど何を行うかだと思います。外部の人も参加できるようなお祭りの形態も検討してみたいかかと思っています。

ガイドをしていて一番人気があるのは、鳩林荘でかなりの倍率です。府中市観光プロモーション課で募集していただいておりますが、人気があります。サントリー、競馬場も人気があります。そういったことも含めてキーワードをお話させていただきました。

【大下副会長】

ありがとうございました。その前の議論についてもコンセプトにつながる内容はいただいておりますので、そこからも今後整理ができると思います。

本日の中で非常にわかりやすいと思ったのが「あなたの知らないまちがある」と井上委員がおっしゃったことと、会長がおっしゃった「知らない府中」です。おそらく今市民に向けても市外に向けても、両

方ともまだ知られていない魅力が残っていることを表すには非常にわかりやすいと思います。実は「あなたの知らないまち」というのは大田区が「あなたの知らない日常が近くにある」という表現で出したことがあります。要するに地区によっては他の地区のことを知らないということを手にとりてそのように出したことがありました。「知らない府中」という会長から話がありましたが、これも北区が最初始めた時にわざと「えっ北区で観光？」というのを出したことがありました。これは北区は普通の住宅地というイメージが強い中で、飛鳥山があり、江戸時代の観光地だったということを考えるともう一回見直しませんかという自虐的に出したものでありました。それに相通じるものがありますが、内外に向けて影響力のある言葉だなと思いました。

お祭りの話がありましたが、お祭りが1つのトリガーになるというストーリーはすごくわかりやすいと思います。お祭りだけで呼んでいるところも実はあります。これは有名な秩父がそうです。秩父の12月の秩父夜祭は有名ですが、年中お祭りをやっているイメージを作り上げています。そういったやり方も1つの方法であると思っています。

国府の話がありました。私はこの国府がすごく大事だと思っております、それは国府そのものをストレートに出すというよりも、国府があるからこそイメージされるものを逆に売り出していくこともあるのかと思っています。実は私がいつか使いたいと思っている言葉がありますが、「品格」という言葉です。「品格ある観光」ということを使いたいと思っていますが、これは格がないところは使えない言葉です。つまり国府があったというのは格付けでは最上ランクだと思います。あとは品があるような地域の人たちがゲスト・ホストの関係でということもこの中で議論されておりましたので、それを考えると品のあるおもてなしや、品のある作りがができるのは実は府中以外は多摩地域、23区以外、あるいは東京都全体を見てもありえないのではないかと思います。「品格」あるということもイメージの1つとして、広げておいていただくと、国府があるというよりも、それがベースになった上で品格があるということも、これからの観光の1つの柱としていくやり方もあると思います。

特にこの中で皆さんが熱く語っていただいたことは、すべて品格に基づく議論をいただいていたと思いますので、その熱気もまさしく品格につながっていると思います。

【大津会長】

ありがとうございました。本日、意見聴取させていただいた内容を私と大下副会長、事務局で預からせていただき、次回は観光振興プラン全体の案についてご意見をいただきたいと思っています。

(5) その他

【大津会長】

次回は時間に余裕をもって資料の送付をお願いいたします。

【事務局】

次回開催日：9月10日（金）午後2時から

場所：北庁舎3階第1・2会議室